



共慈会便り

社会福祉法人
共慈会
〒134-0085
江戸川区
南葛西7-2-3

地域の利用者・職員に安心を！

～民間のPCR検査準備開始～



暑い夏が過ぎ去り日本の美しい秋を堪能したいところですが、新型コロナウイルスは、在宅で暮らす高齢者や障がい者の安心な生活を揺るがし、課題が浮き彫りとなっています。

人との接触が制限され、ずっと通っていた高齢者リハビリデイサービスが自粛閉鎖されたり、障がい者支援施設が人数制限のため、毎日通えず家族が仕事を休み一日を過ごす「家族依存」になってしまふ例が見られました。この先自分が感染したらこの子はどこで誰が面倒を見てくれるのだろうか？と不安も募ってきています。これらの不安に応えられる力をつけたいと思います。

江戸川区感染者も1000人を超え、今や近所で感染した方がいても、驚く話ではなくありません。色々感染対策を行っていても、移ってしまうのが現実です。もし罹患したとしても、入

院治療を受け陰性になって自宅に戻ってこられるのですから、「おかえり！頑張ったね。また一緒に付き合いたいよ」と笑顔で迎えられる地域でいたいと切に願っています。

さて、虹の会デイサービス内では幸いPCR検査で陽性者は今のところ出ていませんが、先日訪問介護ステーション利用者に感染者が発生しました。しかし、家族と保健所からの知らせに、サービス提供責任者が中心となりヘルパーさんや関連事業所などへ落ち着いた対応を行いました。幸いヘルパーさんは濃厚接触者には当たらなかったのですが、介護員の不安はまだ続いています。

そこで、共慈会では、職員が安心して働けるよう、民間のPCR検査を受けられるよう準備に入りました。「共慈会コロナ対策」の基本に則り、今できる最善の感染症対策を引き続き継続し、この先も

地域住民が必要としている介護サービスを継続していく所存です。

▽「在宅みとり」広がる兆し

目を地域から拡げてみると日本国中の、病院や施設が感染防止目的で面会を厳しく制限しています。そのため、終末期のがん患者らの在宅みとりが広がっています。報道されています。以下、共同通信社の記事から抜粋してお伝えします。滋賀県のT子さん(71歳)。5月中旬、自宅で倒れ病院に救急搬送され精密検査の結果は、末期のがん。「余命3カ月」と宣告された。

近くの病院に転院したが、コロナ禍で面会は原則禁止。決められた家族一人が週一回、5分しか会うことを許されなかったため娘さんは「家でみとろう」と覚悟を決めた。

▽最高の時間を



その後亡くなるまでの一週間余りを訪問診療や看護、介護を受けて過ごした。初夏の草花が咲き乱れる自宅近くの小道を散歩し、娘夫婦と大好きなビールで乾杯した。「最期は私と夫で母の手を握って見送りました」「母との時間は輝きに満ちて最高に幸せでした」

▽よりよく生きる「人生会議」 すべての人に！

厚生労働省が最善の医療やケアを受けるため「人生会議」を早期から行うよう提言し、医療機関には、面会制限で最期の時間を家族らと共に過ごせない状況を回避するため、コロナ以外の患者には在宅みとりを選択肢として提示するよう促した。

厚生省2017年度の調査では「人生会議」をしたことがない人が55%を占めている。

東大大学院会田薫子特任教授(臨床死生学)は「高齢者に限らず全ての人に、人生の最期をよりよく生ききるにはどうしたらいいかを考えるきっかけにしてほしい」と訴える。

(提供元・共同通信)

オンライン講座お知らせ

◎10月16日(金)午後5～6時

◎テーマ

1. 介護保険改訂の方向性
2. 事業所としての対策
3. 質疑応答

◎講師: 田中紘太氏 (株式会社マロー・サウンズ・カンパニー代表取締役)

◎感染予防のため、インターネット配信とします。視聴希望の方は、メールで共慈会へ連絡下さい。◎締め切り: 10月9日まで

e-mail:kyojikai@keb.biglobe.ne.jp



「共慈会の福祉車両を利用して、いかがでしたか？」

かもめ号 聞き取りレポート

福祉有償運送担当の折田職員が、「福祉車両かもめ号」を、はじめて利用されたSさんに、お話を伺いました。



◎「共慈会の福祉有償運送を知ったきっかけは？」

Sさん「通院時に転倒し、歩行困難になり江戸川区に相談したところ、車いす対応送迎をしてくれる会社を4か所教えてもらった。しかし、病院に車到着後、病院内まで車椅子を押してくれる会社は他になく、共慈会に相談をしたら、車いす介助OKでした！」

◎「今困っていることは？」Sさん「共慈会さんのおかげで送迎については特にありませんが、透析に通っているので、食事面で心配があり、病院・ケアマネに相談中です」

◎「福祉有償運送を使ってみての感想は？」

Sさん「先日、急に雨が降り出し車に乗るときに濡れてしまうと思案していたところ、臨機応変に雨が止むのを見計らって迎えに来てくれた。おかげで濡れずに済みました。細かい心遣いに感謝しました」折田：Sさんは息子さん、妹さんと同居ですが、息子さんはお仕事が忙しく、妹さんも車椅子介助は大変な状況。しかし、透析には週3回通わないといけない。少し歩けるようにはなってきたが、まだ歩行に不安があるので、しばらく車椅子で通院したいとので今後も利用したい。大変助かっているとおっしゃってくださっていました。お役に立てて嬉しく思います。今後ともよろしくお願ひします。



登録、利用方法など詳細は事務局 折田まで
電話：050-3802-2816 mail:kyokyojikai.car@gmail.com

障害者支援利用者：

コロナで特別支援学級は3月お休み、4月から始まったけど娘は週5回のが半分しか行けなくなりました。家族で見えますが自分の時間が作れず、気分が重くなってしまいます。それで、虹の会介護ステーションのヘルパーさんに来てもらい、トイレ補助や食事介助してもらったりして助かりました。感謝します。

虹の会デイサービスご利用

息子さん：コロナでショートステイが2か月受け入れストップになりました。本人が「家がいい」というのでショートとデイと訪問介護、福祉用具と介護保険限度ギリギリ使い、私の生活もどうにか保っていたのに・・・これでデイまで受け入れストップになったら、有料ホームかと思っていたが、虹の会はいつも通りに預かってくれ助かった～ありがとう！

一人暮らしの80歳認知症利用者ケアマネジャー：

今年の夏は特に暑くクーラーなしでは熱中症になってしまうと心配していた矢先、クーラーが故障していると訪問介護からの連絡あり。成年後見の司法書士に連絡を取り、クーラー購入・緊急レスパイト入院の手はずを整えたが、工事日や部屋の片づけで2週間かかると。入院は延ばせず、お泊りデイサービスに緊急依頼し、無事帰宅。冷房が効いた環境での生活に戻りました！

今年の夏はコロナと熱中症で介護現場は大忙しでした。利用者と事業担当者の声をお届けします！
上記事例のほかにも、障害者相談員からは「いつもは電話されないうい精神障害の利用者さんからの不安気な電話が多くなった」。ケアマネジャー「高齢ご夫婦家族で要介護4の利用者さんの主介護者である奥様が緊急手術入院することになり、その間の受け入れ先ショートステイを申し込んだが、コロナ禍で入れず、レスパイト入院と、緊急でヘルパーさんを介護ステーションに依頼しどうにか乗り切れました。」など・・・
暑い中、毎日のケアお疲れさまでした♡

